Since wars begin in the minds of men,it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed.

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。（ユネスコ憲章前文より）

鎌倉ユネスコ

会報

第122号

ホームページ　https://www.kamakura-unesco.com　　題字　平山郁夫初代会長

1989年6月創刊　特定非営利活動法人　鎌倉ユネスコ協会　：　会長　広瀬晴子

発行部数600部　発行・理事長　長嶋裕子　：　事務局〒248-0012鎌倉市御成町11-2 ヤノヤビル　2F

【編集部】 長嶋裕子、尾花珠樹、小川研一、新倉恒章、青山陽子

目次

1ページ　表紙・鶴岡八幡宮　法人会員一覧
2ページ　鎌倉の史跡と碑（いしぶみ）
3ページ　会長新年挨拶　環境問題講演会
4ページ　わたしの町のたからもの絵画展
5ページ　書評　料理を通して国際理解
6ページ　食卓を囲む先にある相互理解

鎌倉ユネスコ協会法人会員一覧（順不同）

有限会社絲綢社・神奈中観光株式会社：北鎌倉女子学園中学校高等学校・株式会社信光社・株式会社豊島屋
株式会社かまくら春秋社・MAKOTO税理士法人・清泉小学校・株式会社山田養蜂場・アスラン鎌倉店
麓技研株式会社・株式会社神中運輸・有限会社ナカムラ生花・鎌倉大仏殿高徳院・株式会社博古堂
清興建設株式会社・株式会社御代川・株式会社セラリカNODA・鶴岡八幡宮・株式会社鎌倉アソシエーツ
株式会社鎌倉ハム富岡商会・株式会社アペックス・華正樓鎌倉店・株式会社鎌倉紅谷・鎌倉プリンスホテル
大塚製薬株式会社横浜支店・株式会社斉藤建設・鎌倉女学院中学校高等学校・株式会社井上蒲鉾店
江ノ電電鉄株式会社・鎌倉ビール醸造株式会社・大塚オーミ陶業株式会社・鎌倉パークホテル
特別協賛法人　あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

鎌倉の史蹟と碑(いしぶみ)

鎌倉は史蹟豊かな古都である。日本の歴史上に重要な役割を果たした街であるがゆえ、研究や観光などで来訪者が多い。街中を歩けばそこ彼処に仙台石を用いた総高180cmほどある立派な石碑を見かける。石碑は、鎌倉町青年会・同青年団・鎌倉市青年団により、大正6年から昭和16年までの間に鎌倉の史蹟の顕彰と案内を企図し建てられて70数基が残る。碑文は格調高い漢文調の文体で史蹟の概要を簡潔に陰刻してある。これら碑文は既に昭和16年に『鎌倉』(鎌倉市青年団編)で活字化され、近時では書籍やインターネット上でも詳細に論考報告されているが、本紙面を借り碑文を味わいつつ若干の余滴を付して、改めて紹介させていただく予定である。

鎌倉の史跡と碑　1

大蔵幕府舊蹟

「大蔵幕府旧蹟」碑は雪ノ下の清泉小学校地南西の隅切に建つ。源頼朝墓から眼下の地点である　源頼朝は配流地の伊豆に挙兵後、鎌倉に入ったのは治承四年（一一八〇）の十月七日であった。まず鶴岡八幡宮（由比の元八幡）を遥拝し、父義朝の亀谷の旧跡に赴きここに亭を建てようとしたが、狭隘な土地しかも既に梵宇も建っていてこの地での建設を断念。しかし、直ちに大庭景義を奉行として新亭の作事を開始し選ばれた地が「大倉（蔵）」であった。頼朝が新亭に移ったのが同年の十二月十二日であるから、約二ケ月ほどを要した邸であったようだが、頼朝の政務とともに、鎌倉殿（將軍）の居所であるため「御所」を通称とした。現在の清泉小学校とその周辺が大倉御所の旧蹟地とされる。敷地は四面に南御門・東御門・西御門と北御門を設け、大御所・小御所・釣殿・問注所・などが順次整備された。碑文では、政子が没してからこの大倉の御所は宇都宮辻に移転する間の四六年間この地にあったとする。大倉の御所は、建久二年（一一九一）三月四日の小町大路付近からの出火による類火と建保元年（一二一三）五月二日の和田合戦で焼失したと『吾妻鏡』は記し、そのたびに同一敷地に再建されたようであるが、最近の研究では承久元年（一二一九）十二月二十四日の焼失後は同所には再建されず仮御所（北条義時邸の南）を経て、嘉禄元年（一二二五）宇津宮辻子御所に移ったとする説が出されている。これに従えば碑文を一部訂正することになろう。頼朝は在世中大倉の御所を長日にわたって離れたことが幾度かあった。いずれもが歴史的に大きな行動であった。挙げれば、文治五年（一一八九）奥州藤原氏の征伐や建久元年（一一九〇）後白河法皇に謁見と拝官のための上洛。この両度は建久二年（一一九一）焼失以前の大倉の御所からの進発と看られる。そして、建久六年（一一九五）にも鎌倉を離れた。この時は、上洛にあわせ東大寺大仏殿再興の落慶供養参列のための進発であったが、再建後の大倉の御所からの壮途であったことになる。同年二月十四日の『吾妻鏡』の記事は「巳刻（午前一〇時頃）將軍家鎌倉より御上洛、御台所（政子）ならびに男女御息（頼家、大姫）等同じく以て進発し給う」）と、頼朝は家族と連れ立っての旅となったとある。頼朝はこの四年後の正治元年（一一九九）に亡くなっている。大倉の御所を離れての想い出深い旅となったのであろうかと想像してみた。

大蔵幕府舊蹟

今ヲ距(へだつ)ル七百三十七年ノ昔、治承四年源頼朝邸ヲ此ノ地ニ營ミ、後(のち)覇權ヲ握ルニ及ビテ、政ヲ此ノ邸中ニ聽(き)ク、所謂(いわゆる)大蔵幕府是ナリ、爾来(じらい)、頼家・實朝ヲ経テ、嘉禄元年政子薨(こう)ジ幕府ノ宇都宮辻ニ遷(うつ)レルマデ、此ノ地ガ覇府ノ中心タリシコト實ニ四十六年間(かん)ナリ

大正六年三月建之　鎌倉町青年會

＊読点、並列点及び漢字のふりがなは筆者が適宜に施した。

（前鎌倉国宝館長　鈴木良明）

石碑写真　高橋理男氏撮影

会長ご挨拶

広瀬会長あいさつ。　　会長　広瀬晴子

昨年は1月1日の能登大地震に始まり、酷暑の夏、9月にはまたもや能登に水害、そして目を世界に向ければウクライナ、ガザの惨状に、世界各地を襲った多くの自然災害と暗いニュースが続いていましたが、幸い鎌倉には台風も避けて通った穏やかな年となりました。年末には、鎌倉ユネスコ恒例の絵画展・私の町の宝物展で、小・中学生の絵の明るい色調に心が洗われる気持ちがしました。

今年はさわやかな年になり、我々の町の宝物の子供たちが笑顔で伸び伸び過ごせ、その親達やその他の大人たちもハッピーに暮らせる鎌倉であることを願い、世界の暗い世相をはねのける地道でユネスコ精神にのっとった鎌倉発の活動を続けていけるよう頑張りましょう。

環境問題講演会

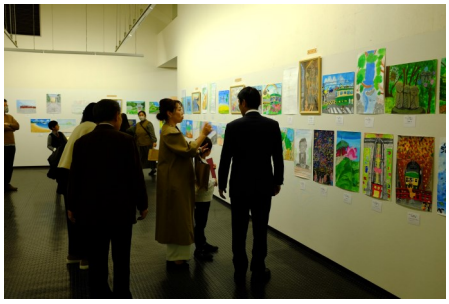
科学・環境委員会主催による「今日何食べる？～食から考える環境」と題し、桜美林大学教授の藤倉まなみ先生をお迎えした講演会を11月23日（土）午後、カトリック雪ノ下教会で開催し約25名の参加があった。その概要は以下の通り。

(1)地球温暖化が食にもたらす影響 (2)食料の生産や消費が地球温暖化や生態系に及ぼす影響 (3)私たちは何を選択する？～今日，何を食べる？～の3つのパート構成でご講演をいただいた。地球温暖化による海水温の上昇、CO2の海中溶存度増大による海の酸性化により海洋生物の減少・死滅が起こり、寿司ネタが消える危機に瀕していることが示された。また、特に牛肉は大量の穀物・水を消費するため非常に育成エネルギー効率が低く、さらには牛排出メタンによる地球温暖化や、森林破壊、水質汚濁などの環境問題を引き起こす食料であることが説明された。講演会の後半では参加者に対して「地産地消は何がよいのか」「食べ残しをしないことは何がよいのか」との問いかけが

行われ、参加者が述べた考えのキーワードを藤倉教授がホワイドボードにツリー表記することにより会場全体でのブレインストーミングが行われた。参加者のほぼ全員それぞれが発言する非常に活発なディスカッションも展開されたことにより、ひとりひとりが環境と食の選択について意識する啓発として有意義で充実した講演会となった。（松木伸行）

「絵で伝えよう！ わたしの町のたからもの」絵画展　2024

いつまでも住み続けられる町であるために（SDGs）



本年度の絵画展は小学校18校から142点、中学校4校から25点、合計167点の作品の応募があり、11月30日に審査会を開催しました。その結果、子どもたちがせっかく描いてくれた作品なので、展示が可能な167点すべてを展示することにしました。

受賞作品は、鎌倉市長賞に御成小学校6年・熊倉莉良さん、鎌倉市教育委員会賞に御成中学校2年・菊一あかりさん、日本ユネスコ協会連盟会長賞に第二中学校3年・石井万尋さん、鎌倉ユネスコ協会会長賞に山崎小学校5年・江頭晴継さん、審査委員特別賞に第二小学校3年・鈴木紬基さんの作品と、別に優秀賞8点の作品を選びました。受賞作品は次のとおり。（伊東正博）

鎌倉市教育委員会賞

菊一あかり　御成中学校2年

“伝統をきざむ”

鎌倉市長賞

熊倉莉良　御成小学校6年

“伝統をきざむ”

日本ユネスコ協会連盟会長賞

石井万尋　第二中学校3年

“水面に映った自然たち”

鎌倉ユネスコ協会会長賞

江頭晴継　山崎小学校5年

“うみ”

審査委員特別賞

鈴木紬基　第二小学校3年

“天狗”

ビーチコーミング

10月18日（金）、ユネスコスクールである鎌倉女子大学中等部の1年生約50名と由比ガ浜海岸でビーチコーミングを行いました。当日は市主催のビーチクリーンが午前中に開催されたようで、漂着ゴミはすっかり片付けられていましたが、さまざまな色や形の貝殻やシーグラス（ガラス片）を集めてサンドアートを制作しました。

また、ビーチコーミングに先立ち、9月４日と11日に鎌倉女子大学岩瀬キャンパスにおいて事前学習を行いました。４日は、七里ガ浜高校OGで大学生の石川真優さんと坂口心奈さんからファッションロスについて、11日は腰越で環境にやさしい八百屋ZERO WASTE川田商店を経営する川田千代子さんと日本気象環境機関の井手迫義和さんから持続可能な社会について講義をしていただきました。（小池　治）

書評　小松由香著『人間の土地へ』集英社インターナショナル、2020年

2024年10月、沼津市で開催された中部東ブロック研究会で小松由香さんの「故郷を失った難民の日々ーシリア難民から考える世界ー」と題する講演を拝聴した。知る人ぞ知る小松由香さんは、世界第２の高峰K2（8611m）に日本人女性として初登頂した登山家である。下山後、小松さんは中東の砂漠の民の生活に興味を抱き、フォトグラファーとしてシリアを訪問するうち、砂漠の民アブドュルラティーフ家12男のラドワン氏と知り合う。やがて二人は愛し合うようになるが、シリア内戦が勃発すると、政府軍に徴兵されたラドワン氏と小松氏は離れ離れになってしまう。しばらく音信が途絶えるなか、ラドワン氏は軍を脱走し、隣国ヨルダンに逃げて難民になる。意を決した小松さんはヨルダンに向かい、その地で二人は結婚する。現在、小松さんとラドワン氏は日本で生活しているが、シリアの牧歌的な文化を愛するラドワン氏は日本社会になかなかなじめないという。本書をつうじて小松さんは、シリアのパルミラというオアシスの美しい街が内戦によって無残に破壊されていく有様を冷静に描写している。難民問題だけでなくアラブの文化に興味がある方にもぜひ一読を薦めたい良書である。（小池　治）

料理を通して国際理解インド編

8月23日（金）に国際交流委員会主催の「料理を通して国際理解」インド編を執り行いました。会場は鎌倉市福祉センターの調理室。山田ますみ国際交流委員長と料理担当奥山とでインド大使公邸訪問時、大使ご夫妻およびヴィヴェーカーナンダ文化センター監督のカニカ・アガーワルさんが御応対くださり、食材はすべてインド大使館が無償提供する代わりに2分のビデオを撮って欲しい旨の要望。撮影したビデオは鎌倉ユネスコのホームペイジに載っています。当日は大使夫人、カニカさん及び大使館員の奥様方5名も民族衣装で来て下さり各調理台にお一人ずつついて下さる。参加会員は8名、会員外は12名。メニューは

ButterChicken（鶏の煮込み）、Pulao（炊き込みご飯）、Raita（サラダ）にChai（お茶）でしたが、別途2品とナンをお持ち下さり美味しい大宴会となる。食後のカニカさんによる講演でインドは大きな面積の国なのでお料理に限らず、諸習慣、服装、食べ物など地域ごとに違い、多様性に富んだ国であるとの事。（奥山誼子）

知覧へ、戦争の悲惨さと平和の大切さを思う

10年以上前、知覧の特攻隊基地博物館（知覧平和会館）を訪れた。学徒出陣を控えた若い兵士の手紙が多数展示されている。父母への感謝と長寿への祈り、兄弟姉妹には父母・祖父母に対する孝行と労わりへの願いが記されている。特に婚約者との別れの手紙は哀切の情に溢れ何度も読み返してしまう。いずれの内容にも、明日には出撃命令が下るかもしれない切迫感が読み手の情感を震わせ思わず息が詰まる。展示を読み進むうちに自然と背筋を伸ばし最敬礼の気持ちで見学を終えた。

外の街並みは武家屋敷保存地域で静謐な環境が際立つ。師走にしては暖かな一日、快晴微風、佳き新年を迎えられそうだ。穏やかで平和な日々が次世代まで引き継がれよう思いを新にする。（小川研一）

食卓を囲む先にある相互理解の深化

「モロッコFW」と銘打って、学生たち14名と3週間弱のモロッコ滞在を行った。1年生から4年生までの混成チームということで、学生間のコミュニケーションに堅さが見られたことに加え、全員がアフリカ大陸およびアラブ･イスラーム圏の訪問が初めてということで、彼女たちのほとんどが戸惑いの日々だったと思う。最終的には、モロッコの大学生活にすっかりと慣れ、大学内のコンビニの定員さんや食堂のスタッフと仲良くなっていたが、この間の明確な転換点は「モロッコ料理」にあった。

滞在中、プロのシェフが、ご自宅でモロッコ料理を学生たちと共に作ってくれ、その後家族も交えて大きな食卓を囲む機会があった。チームワークを発揮しながらの料理という共通体験をし、プロのふんだんなアシストを経た絶品のモロッコ料理を多くの会話と共に楽しんだ。この日を境に、学生たちはモロッコ社会により深く溶け込んでいったように感じた。異なる文化を知り、お互いに尊重して、つながりあう上で、「食」や「食卓」が果たす役割は相当に大きい。食べることは生きること。現地の食を通して、地球市民としての経験値を積み増したことに違いない。（山本達也）

編集後記

昨年ほど「分断」という言葉が政治的、経済的、文化的と多方面に聞かれた年はなかった様に思う。分断は争いの火種を撒く。我々はユネスコの「心に平和の砦を築く」理念をどの様に体現すれば良いのか、日々模索している。その中で鎌倉ユネスコ協会では2月7日（金）13時から「平和の鐘」のイベントを、さらに3月8日（土）13時から「難民問題の今を考える」勉強会を開催する。皆で平和の尊さを学び合うことの大切さを是非この機会に体験して欲しい！場所はいずれもカトリック雪ノ下教会レベックホール。（山田ますみ）